
一生届くことのない手紙

林辰子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一生届くことのない手紙

【Nコード】

N0812BA

【作者名】

林辰子

【あらすじ】

T・Mへ。

私は君をずっと好きだ。

君は私が好きって知ってるのに、嫌ならそう言ってほしかった。私のせいだって言ってほしかった。

優しいところが嫌いだ

でも、絶対に嫌いになることなんて出来ないよ

ずっとあなたが好きでした。
これからも多分、ずっと好きです。

E・Mより。

プロローグとして手紙を書きます（前書き）

最高に痛い恋愛小説を書きたいと思って実行しました。

読んで痛い、書いていても痛い、嘲笑してしまうような話になり
そうですね。

時々現実の話、時々手紙の内容って形で書いていきたいと思います。
初心者故、ご容赦下さいませ^^；

ブログとして手紙を書きます

知ってますか

知ってますよね

好きなんです

始めて見たときは、別に何とも思わなかった

でも、今は君無しじゃ生きていけないんだ

ごめん、ほんとにごめん、好きになって

何で好きかって聞かれたら、上手く答えることが出来ないけど

ほんとうに
好きなんだ

もう君には、私の思いを伝えることが出来ないみたいだから

せめて

手紙を書かせてください

世界で一番大好きです

命をかけられるかといったら、はっきり言ってそこまではだめだ。

でも、君を超える人が現れることは無いでしょう

君は星だ

夜空に輝く北極星のように、私の胸の中で輝きつづけるの

北極星は星よりも輝いてほかのどの星よりも遠くにあるんだよ

ね、まるで君のようじゃないか

私は君を自分以外の何かの中でとても大事に思ってる

でも君は???

これは、一生届くことのない手紙です

ただ、一生変わらないのは
ずっと大好きだったこと

過去の話（前書き）

非常にわかりにくいと思います。
勢い任せでかきました。

過去の話

過去の話をさせてください。

私は、T・Mが好きです。

8月まで、T・Mの顔を知りませんでした。

11月まで、T・Mの苗字を知りませんでした。

気になりだしたのは12月です。

はっきり記憶にはありませんが、T・Mを見ているとなんだかドキドキしたんです。

以下、Tとしましょう。

私は、それまでSという男が好きでした。

Sは同じクラスでした。

しかし、夏休み

Sは部活のため、一回も学校の夏季講座に来ませんでした。

Sに会うためだけに学校に来ていた私にとって、Sと会うことで

きない一ヶ月間は辛いものでした。

一ヶ月会えなかったら、急激に好きだという気持ちが無くなりま
した。

こんなものかって思いました。

Sは初恋の人でした。

ずっと好きだ

この気持ちがなくなることはないはずだった

永遠なんてないのか。

でも、私はSをまだ好きだということにしました。
好きじゃないと認めたら、何か本当に大切なものを失う気がしたか
らです。

Sとは話したことが無いし、同じクラスだということ以外、共通点
がありません。

出身校も知りません。

そのままずると12月になりました。

12月某日

目の前に、Tが現れました。

Tは、他クラスでしたが、同じ部活でした。
バドミントン部でした。

長身で痩せた、地味な男でした。

目が小さく、一言で表すなら日本犬のような顔をしていました。

Tは、部の男子の高校始めの中で一番強かったため、女子のトップと戦わされることになりました。

女子のトップとほぼ互角だった気がします。

その時の私はなにかも空っぽで、Tのことをよく見ていませんでした。

部の他の女子は、何かしら騒いでいたような気もしました。

部活が終わって、試合を記録するノートを見ました。

Tとトップの試合

名前は書かれているが、点差と勝敗が書かれていない。

まあいいか

その時はその程度のものでした。

結局、もやもやしたままに年が明けました。

1月

私は、疲労骨折をしました。そのせいで、一年生大会に出られなくなりしました。

ダブルス大会でした。

女子部員が11人しかいなかったの、ちょうどよかったのかも知れませんが。

女子は、すぐに全組負けました。

私は、自分の出る試合ではないからと、あまり真面目に大会を見ていなかったと思います。

Tは準々決勝まで勝ち残っていました。

Tは、中学時代には県大会で表彰されるような実力のAと組まされてきました。

まあ、Aが強いから勝っているんだろう。

その程度にしか思いませんが、自分の学校で残っているのがその二人だけだったので、応援に行きました。

私はTをあなどっていた。

Aが強いからじゃない。

Tも強いから勝ち残っているんだ。

Tの動きは、Aにも負けないようなもので、中学時代も競技を経験してきたことを想像させました。

小学生の、
足が速いから好き
というのと対して変わらないと思います。
でも、それまで引きずられていたSはどこかへ消えました。
私の中には、感動と尊敬と憧れと、とにかくTに対する好意があふ
れました。

TとAペアは準々決勝を勝ちました。

準決勝、T以外は全員中学時代競技経験者でした。

一セット目

五点差をつけられ、相手側にセットを取られました。

二セット目

十点差という厳しい状況、相手はすでにマッチポイント
誰もが負けると思いました。

しかし、鮮やかにそれをひっくり返したのです。
まるで映画のように！！

ついには、セットを取りかえしてしまいました。

会場が、学校が一つになりました。

ファイナルセット、競りに競って、彼らは取りました。

歓喜に湧きました。

決勝まで進んだのです、未経験者が。

私には、すごいということしかわかりませんでした。

決勝は、市長杯優勝のペアが相手でした。

AとTは健闘しました。

私たちも、必死で応援しました。

しかし結果は、

一セット目

2 1 1 7

二セット目

2 1 1 9

で二人は負けました。

私は本気でショックでした。しかし、感動は計り知れなかった。

興奮して、心臓の鼓動が早まったから、それを勘違いしたただけなの

かも知れない。

でも、私はその日丁を大好きになりました。

年明けに手紙を書いてはまずいでしょうか。(前書き)

「私」が語りかける形です。現在の私。

重くて痛々しい女です。

年明けに手紙を書いてはまずいでしょつか。

あけましておめでとう

去年の今頃なら出来なかった、「あけおメール」
出来て嬉しいです。

自分の電話帳に入っている人達にはだいたい送るんだけど、君のは
特別なんだよ

……でも、嫌な思いさせたくないから、みんなにも同じのを送って
いるんだよみたいにしちゃった

「あけましておめでとうございませす
昨年度は皆さんのおかげで、大変密度の濃い一年とすることが出来
ました。」

今年もとてつもなく良い一年となりますように
今年度もよろしく願います
ではでは

密度の濃い一年でした…

分かってるよね???

無かったことになんてしないでほしい

お願い、忘れないでください。

君からの返信

来ないほうが良かったな

来なかったら来ないで、それはそれで傷つくんだけど
来たら、もっと傷つくから

君は返してくれた

見るのにどれだけ勇気がいるか

君以外の全員のメールを全部見る

それから見ようって思っても見られない

……やっと見れた

「あけましておめでとう」

それだけ

はっきりいって、何が返ってくるかは分かってるよでも、無理してるんじゃないかな。本当は嫌だとか、面倒だとか思ってるんじゃないかな。

最初は、私のこと少しは好きだったんでしょ???

「今年もよろしく」

って入れてほしかったな

今年はまだ、私と関わりたくないですか。

勝手に傷ついているのは私だけど、でも、こんなにさせたのは君なんだよ。

自覚無いよね

少しだけでいい

本当にちょっとだけでいいから

振り向いてください

あなたの優しいところが大好きです

……ごめんね、好きになって。

過去の話の続き(前書き)

過去の話の続きです。

長いです。

あと、話し言葉が統一されてないと思います^^ ;

過去の話の続き

というわけで、私はTを好きになったわけです。

確信は持てませんでした。

Tを見てるとドキドキしてしまって、すぐに目を違うところへ、Tが映らないところへいってしまつんです。

でも、またTを見ている

それがエンドレスに繰り返されるわけです。

どこかへ吹っ飛んでしまったSには無かった感覚でした。

AとTが戻ってきました。私たち、同じ学校全員が二人の健闘を讃えました。

素晴らしかった。本当にすごかった。お疲れ様。

… かつこよかった。

同じ部活の女子Rが、AとTに何か渡しました。

私が偶然、Tを見たときにRは渡したのです。

飴でした。

今までの私なら何も思わなかったでしょう。

でもその時の私には堪えられなかった。

どこからか分からないが、激しい憎悪が湧いて来る。

何、これは

何でこんなに腹がたつの

何でこんなに悲しいの

何でこんなに辛いもの

始めて味わった感情

ああ、これが嫉妬か。

Rは言いました。

Aくんがすごいのは知ってた。でもTくんはすごい。

Tくんはもつとすごい。

AくんとTくんは頑張ったから飴あげたの。

仲良くなりたい。メアド聞かなきゃ。

私は、なんとしてでもRを阻止しなければならぬ気がしました。
なぜかは分からない。

でも、RにTをやるくらいなら、私が欲しい

そうはつきり思いました。

しかし、Rの

AとTは頑張ったから

というのは納得がいきませんでした。

他の人達は頑張っていないのか??入賞しなければ頑張ったうちに入らないのか??

おそらく、私が疲労骨折をした原因の張本人

そして、それを目の前で放置し、おおごちにさせた張本人がRだったので、ここまで思ったのでしょうか。

私は間違いなくRが嫌いでした。

Tが好きだったのも事実でしたが。

だからTを渡したくなかった、Rと馴れ合ってほしくなかったのもあると思います。

勝手な意地を張りました。

次の日から、Tは部内のヒーローでした。

周りの目が変わった、といえば正しいでしょう。

すぐに元に戻るだろう、と思いました。

でも、Rはなかなか止まらない。

私は密かに苛立っていました。

Rの口が、Tの名前を発音する形になると、激しく憎悪する憤怒する

勝手に一度も話したことのないTのイメージを作り上げ、Tを自分の物にしたいと思っていました。

渡さない、誰にも

渡しはしない

遂に、私は一人でこの思いを抱えきれなくなりました。

TとAが準優勝して進んだ上の大会を見に行った帰り、告げました

唯一、部活の良心と言えるNに。

私、Tくんが好きなんだ。

Nは、驚きました。

そして、

私がRに対して抱いている不安、
試合で活躍したから好きだって思われたくない。活躍すれば誰でも
いいわけではない。

思っていたことをNに告げました。

Nは、私に笑いかけてくれました。

そうなんだ。

知らなかったよ。

でもねー、Rはあれはすぐに黙るよ。一時の感情だから。
大丈夫だよ、あんたかわいいから!!
でもTくんかー。Tくんねー、謎だよねー。

こそばゆい気持ちでした。

Nは、協力すると言ってくれました。

私は、とてもうれしかったです。

Tの話ができる他人がいる。

Tの事を考えるだけで、私は舞い上がってしまう

Tの事を話したら
どうなってしまうんだろう。

私は、Tにベタ惚れしていました。

会えないときは、どうすればいいですか。(前書き)

ここまでくると重症ですね。

鉛並に重い女。

会えないときは、どうすればいいですか。

年が明けても、会わないまま十日近く経ちます。

元気ですか??

メールは、きつと君に嫌な思いをさせてしまうので、送れません。

ねえ、少しは我慢が出来るようになったでしょう??

去年の私なら、きつとたくさんメールしてた

会えないときは、どうすれば空っぽな心が満たされるのでしょうか。

君は私の事を考えているのかな。

きつと、私と君の思いには、相当なギャップがある。

それはやっぱり当たり前で、怖いからどっついても目を反らしてしま
う事なんだけど

私は、君の事ばかり考えちゃうよ

会えなければ会えないほど

その時間が長いほど

辛くなってしまふの

君に会っても、満たされることはありえないんだけど

会えなかったら

もっともっと

満たされることは絶対にありえない

私の人生の中で、君の存在は欠かすことが出来なくなってしまうた

んだよ

あーあ

こんなことなら

出会わなきゃ良かったのかなー

違う学校を選んでは良かったのかなー

違う部活を選んでいれば良かったのかなー

でも、君に出会わなかった人生なんて

死んでもいい

知っていると思いつけど言わせて

癡っつゝるや

誰よりも、ずっと

会いたいです。

あと、答えて欲しいです

……やっぱり駄目？

未練がましい女はダメですか。(前書き)

タイトル通り^^^;

私自身は、未練がましい女はダメだと思います

未練がましい女はダメですか。

8月20日

私は君から来たメールを全て消した

私から送ったメールも全て消した

君のメールアドレス

.....

手が画面の前で止まった

.....

実際、君から来たメールを消すことは、
容易いことじゃなかったんだよ

新しいメールから古いメールを選択していくほど

辛かった。

やっぱり君は優しいよ

君のメールアドレスを消すことなんて絶対に出来ない

8月20日

忘れもしない

君は忘れた？？

そんなの承知しないから

それに、私は嘘をついた

君からのメールは消してない

データフォルダの中に…
記録してしまっていたよ

でも、それを見ることなんてない
今後一切

だから、私の中では消したに等しい

こんな言い訳かなあ

あの時は

人生で一番楽しかった

8月20日

あの瞬間が

ずっと続いてたらよかったのに

あの日君は
私しか見てなかった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0812ba/>

一生届くことのない手紙

2012年1月4日11時46分発行